

児童福祉施設と里親とのパートナーシップ構築に向けての課題

— 児童養護施設・乳児院職員のインタビュー調査結果からの考察 —

○ 大阪府立大学 伊藤嘉余子 (3930)

石田 賀奈子 (神戸学院大学・6061)、永野 咲 (東洋大学大学院・7173)

キーワード：児童福祉施設・里親・パートナーシップ

1. 研究目的

2012 (平成 24) 年 11 月に、家庭的養護の推進計画策定を軸とした「自治体が取り組むべき社会的養護の課題と方向性」が厚生労働省によって発表された。その中において、各自治体における児童養護施設等の小規模化・地域分散化を進めること、里親委託率の向上を意図した里親制度推進に向けた取組を行うことが方向性として示された。また、その中では、里親委託率 30% という目標値が示された。

他国と比して日本では里親登録者数や里親委託件数が伸びないという問題点については古くより指摘されている。なぜ日本では里親制度が発展しないか、その原因や背景については、多くの内容が指摘されているが、中でも「里親への支援体制の不足」は里親制度発展の大きな阻害要因と考えられる。里親支援を充実させるにあたり、乳児院や児童養護施設がその役割を果たすことも期待されているといえよう。

さらに、施設が里親を支援するという視点だけではなく、子どもにより良い養育を提供するために、施設が積極的に里親を活用するという視点もこれまで以上に重要になるだろう。社会的養護を必要とする子どもたちにとって、乳児院、児童養護施設、里親は大切な社会資源である。子どもたちにとって「施設か里親か」の選択をするのではなく、子どものニーズに応じて、里親養育と施設養護が連携しながら、より良い養育環境を提供していくことができるようなパートナーシップが必要である。

そこで、本研究では、児童養護施設と乳児院職員へのインタビュー調査を通して、施設と里親とのより良いパートナーシップを構築するにあたっての課題を明らかにするとともに、課題解決につながる展望や可能性について考察することを目的とした。

2. 研究の視点および方法

A 県にある乳児院 3 ヶ所および児童養護施設 13 ヶ所において職員を対象としたインタビュー調査を実施した。インタビューは「里親委託推進に対する考え」「日々の実践を通して里親との関わりの中で感じること」「里親と施設とのパートナーシップ」について回答者の考えや意見を自由に語って頂く半構造化面接で行った。

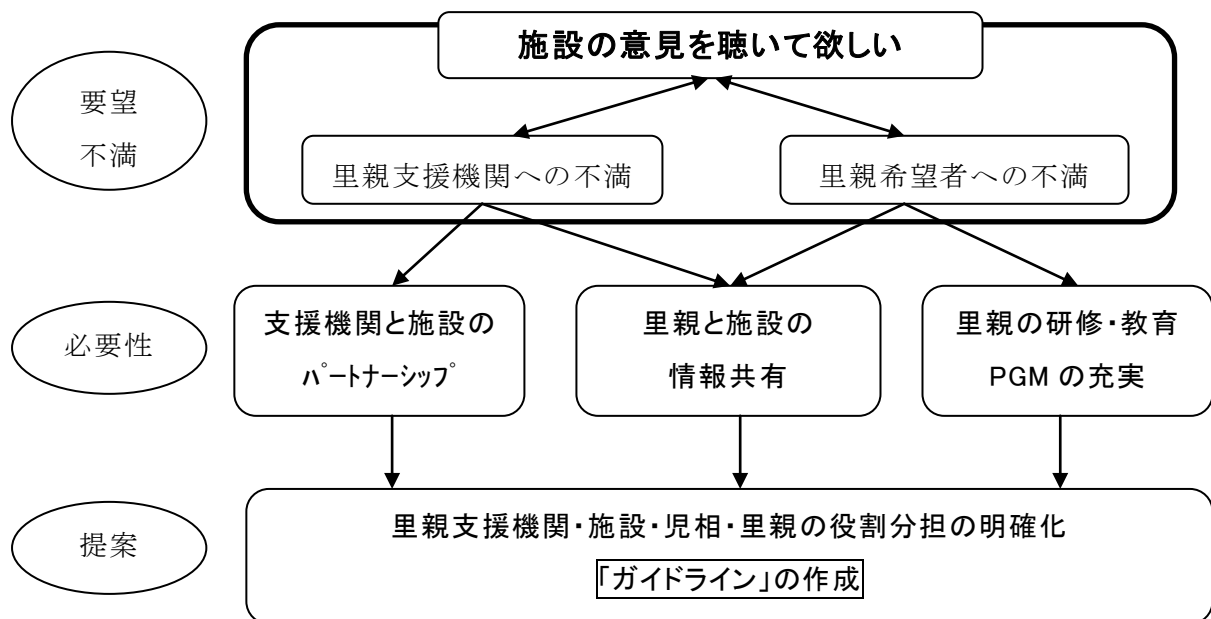
インタビュー結果については、グラウンデッド・セオリー・アプローチの手法に基づき、①逐語化、②データの切片化、③オープン・コーディング、④カテゴリー作成、⑤カテゴリー間の関係探索、の手順で分析を行った。

3. 倫理的配慮

倫理的配慮として、調査協力施設の施設長および調査回答者に対して、秘密保持、調査結果の公表、インタビューの録音およびデータの保持・管理・破棄等に関する文書を調査に先立って郵送し、事前に承諾を得た。調査当日あらためて誓約書の内容に関する説明を行い、承諾を得た。

4. 研究結果

分析の結果、7つのカテゴリー「施設の意見の反映」「里親支援機関への不満」「里親希望者への不満」「里親支援機関と施設の連携」「里親と施設の情報共有」「里親の研修・教育プログラムの充実」を抽出した。これら7カテゴリー間の関係性を探索し、図にまとめた。



図：乳児院・児童養護施設職員が語る「里親委託推進に向けた課題」概念図（簡略版）

5. 考察

分析の結果、以下の点が明らかになった。

- (1) 子育て経験のない里親を対象とした乳児院における研修・実習・相談支援などの里親スキルアップにつながる支援プログラムの積極的展開の可能性
- (2) 施設職員と里親との定期的な懇談・懇親・交流会実施の意義と必要性
- (3) 里親マッチングのプロセスや根拠の明確化とそれぞれの意見表明機会の設定
- (4) 里親支援機関・施設・児相・里親の役割分担の明確化とそのため「ガイドライン」の作成と共有（その自治体の事情に合ったものの作成の必要性）

謝辞

本研究は A 県 A 市より研究助成を受けて行った調査研究です。調査研究の実施にあたりご支援いただいた A 市、調査研究にご協力下さった乳児院・児童養護施設の皆様に深く感謝いたします。